

阿部昭教授と国士館

文学部考古・日本史学専攻教授 佐々博雄

阿部昭教授は、二〇一三（平成二五）年三月をもって国士館大学を退職されました。この「国士館史学」第一八号は、阿部教授の退任記念号になりなります。本記念号の発刊にあたり、阿部教授の本学就任からのお付き合いもあり、僭越ながら考古・日本史学専攻・日本史学会を代表して、教授の本学での足跡を紹介しながらご挨拶を述べさせていただきます。

阿部昭教授は、一九四三（昭和一八）年生れで、古希を迎えられたところです。栃木県の出身で、東京教育大学文学部日本史学専攻卒業後、栃木県の県立高校教諭を歴任され、県教育委員会や県立公文書館開設に大きな貢献をされております。一九八七（昭和六二）年四月、国士館大学文学部国史学専攻助教授として就任され、教授、学部長、法人常任理事として、二六年間の長きに亘って専攻、学部、大学、法人の発展のために努力されてこられました。その功績によって二〇一三（平成二五）年六月、国士館大学名誉教授が大学から授与されました。

阿部教授の学問業績については、研究業績一覧でわかるように、近世村落構造の研究を中心に、多方面に亘って多くの著書や研究論文を著されておられます。大学の仕事をこなしながらの研究には敬服いたします。（研究業績表参照）

さて、阿部助教授が就任された頃の国士館大学は、過去の不祥事を乗り越え大学改革が進み始めた頃でした。当

時の国史学専攻（現考古・日本史学専攻）は、教授二名専任講師二名で、なかなか新しい改革を進めるには、中堅となる教員がいない状態でした。そこで、阿部助教は、まず専攻学生の立場からカリキュラム改革に取り組み、専攻内の履修体系の整理と新科目の設置を提案し実現しました。具体的には考古学科目の整理と、史料学関連科目の新設で、現在の専攻科目の骨格が出来上がりました。その後、教授昇格後、専攻・教務主任を務め学部運営に努力し、さらに学部長に選出されると学部改革に積極的に取り組みましたが、残念ながら実現化はできませんでした。続いて、法人理事・常任理事に就任、大学全体経営にも関与し、国士館福祉専門学校の廃校整理などを手掛けられました。また、国士館百年史事業担当理事として国士館史資料室を新設し、初代資料室長を兼務され、現在も百年史編纂顧問・専門副委員長として活躍されています。

さらに、退職後は、学会委員や栃木県を中心とした文化財審議会委員・史跡調査整備委員などの公職に就かれ、地域の文化行政にも貢献されています。

私共は、このような阿部先生の教育・研究に対する熱心な姿勢を見習い、今後、学生・院生の教育・研究に生かしていきたいと思つています。

今後とも、私共後輩へのご指導ご鞭撻をお願いするとともに、簡単ながら先生の足跡を述べさせていただきます、感謝の気持ちに換えさせていただきます。最後に、これからの先生のご健康を心からお祈りいたしましてご挨拶とさせていただきます。